

- 問1 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 富岡製糸場 | 2. 生野銀山 | 3. 石見銀山 | 4. 足尾銅山 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問2 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力をを持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何とといいますか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-----------|----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 公事方御定書 | 3. 武家諸法度 | 4. 御成敗式目 |
|--------|-----------|----------|----------|
- 問3 戦国時代、室町幕府の支配力が弱まる中で、各地の戦国大名が自らの領国内の家臣や領民を統制するために独自に定めた法律を何と呼びますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|-----------|------------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 武家諸法度 | 3. 公事方御定書 | 4. 分国法（家法） |
|----------|----------|-----------|------------|
- 問4 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-----------|----------|----------|
| 1. 喜望峰 | 2. マゼラン海峡 | 3. スエズ運河 | 4. パナマ運河 |
|--------|-----------|----------|----------|
- 問5 戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。 | 2. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。 | 3. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。 | 4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。 |
|--|---|--|--|
- 問6 戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|--|
| 1. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。 | 2. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。 | 3. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。 | 4. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。 |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|--|
- 問7 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. オランダ | 2. スペイン | 3. イギリス | 4. ポルトガル |
|---------|---------|---------|----------|
- 問8 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。 | 2. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。 | 3. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。 | 4. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。 |
|--|---|--|--|
- 問9 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何とといいますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|--------|
| 1. ルネサンス | 2. 宗教改革 | 3. 産業革命 | 4. 十字軍 |
|----------|---------|---------|--------|
- 問10 1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|---------|----------|
| 1. 産業革命 | 2. 十字軍 | 3. 宗教改革 | 4. ルネサンス |
|---------|--------|---------|----------|
- 問11 日本の戦国時代に相当する16世紀、ヨーロッパではキリスト教のあり方をめぐって大きな動きがありました。カトリック教会の腐敗を批判し、聖書を信仰のよりどころとする「宗教改革」を始めた人物は誰ですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|------------|----------|----------|
| 1. ルター | 2. クビライ・ハン | 3. ワシントン | 4. ナポレオン |
|--------|------------|----------|----------|
- 問12 日本の歴史における主要な出来事を時系列で整理したとき、鎌倉幕府の成立、室町幕府の成立、応仁の乱に続いて、16世紀に発生した出来事としてふさわしいものはどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|----------------|------------------|-------------|
| 1. 種子島への鉄砲の伝来 | 2. 元寇による博多への侵攻 | 3. 日明貿易（勘合貿易）の開始 | 4. 御成敗式目の制定 |
|---------------|----------------|------------------|-------------|
- 問13 室町時代から戦国時代にかけて、家臣が主君に打ち勝って実力を伸ばすなどの風潮が広がりました。このような下剋上の風潮の中で、戦国大名が家臣の行動を取りしめ、領国を独自に支配するために定めた法律を何とといいますか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 武家諸法度 | 3. 御成敗式目 | 4. 公家諸法度 |
|--------|----------|----------|----------|
- 問14 戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|--|
| 1. 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため | 2. 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため | 3. 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため | 4. 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため |
|---|---------------------------------------|---|--|
- 問15 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 1. 惣村 | 2. 下請け | 3. 寄合 | 4. 下剋上 |
|-------|--------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問2	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問3	答え 4 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。
問4	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問5	答え 1 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱業の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問6	答え 3 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問7	答え 4 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問8	答え 1 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。	分国法は、駿河国の「今川仮名目録」や甲斐国の「甲州法度之次第」のように、各戦国大名がそれぞれの領国の維持・発展のために独自に定めた法典です。幕府による全国一律の支配が及ばなくなった時代において、各大名が家臣の統制や年貢の確保、領民の管理などを目的として作成しました。他の選択肢にある大宝律令や御成敗式目、刀狩令とは時代や制定主体が異なります。
問9	答え 2 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免罪符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問10	答え 3 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問11	答え 1 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問12	答え 1 種子島への鉄砲の伝来	鎌倉時代の御成敗式目制定や元寇、室町時代の幕府成立や応仁の乱を経て、戦国時代に入った1543年にポルトガル人によって鉄砲が伝えられました。これは時系列において、室町幕府が衰退し戦国大名が台頭する時期にあたります。
問13	答え 1 分国法	戦国大名が自らの領国を統治し、家臣の行動を取りしめるために定めた独自の法律を「分国法」といいます。江戸幕府が大名を統制するために定めた「武家諸法度」と混同しないように注意が必要です。
問14	答え 1 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとしていました。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問15	答え 4 下剋上	応仁の乱以降、足利將軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。